

Si-report

Socio-Intelligence report

専修大学のビジョンと現状

2019

SENSHU UNIVERSITY

Vol. 14



SENSHU SOCIO-INTELLIGENCE

建学の精神と21世紀ビジョン「社会知性の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence) とは
専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。4人の創立者は、帰国後、経済学や法学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立します。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。以後、本学は関東大震災や戦禍などによって極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り続けてきました。21世紀に入っ

た今日においては、私学全体にふりかかる大きな荒波を乗り越え、さらなる発展を遂げなければなりません。常に創立の原点に立ち返り、本学の進むべき指針を熟慮するとき、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を21世紀ビジョンに据えました。今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題は山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。



神田キャンパス3学部のキーパーソン5名による座談会

専修大学が描く将来ビジョン

—社会知性の具体化に向けた教育改革が実を結ぶ—

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 01 佐々木 重人 Shigeto Sasaki 専修大学長 | 02 金子 洋之 Hiroshi Kaneko 副学長 |
| 03 森川 幸一 Kouichi Morikawa 法学部長 | 04 渡辺 達朗 Tatsuro Watanabe 商学部長 |
| 05 斎藤 達哉 Tatsuya Saito 文学部教授【国際コミュニケーション学部長(予定)】 | |



靖国通り神田新校舎(仮称)完成イメージ

神田キャンパスで新たに展開される
国際コミュニケーション学部と、
それに伴う学部間のシナジー

佐々木 専修大学では、21世紀ビジョン、「社会知性の開発」に基づき、専門知識や技能を高め、社会の課題を解決できる学生を育てたいと考えてきました。21世紀ビジョンの実現に向け、重要な4つのファクター、「深い人間理解」、「倫理観」、「独創的な発想」、「地球的視野」は、130周年から10年間をかけて順次、体现されています。「深い人間理解」としては心理学科と社会科学部を擁する人間科学部の新設、この4月からは、「倫理観」につながる文学部ジャー

ナリズム学科、「独創的な発想」につながる経営学部ビジネスデザイン学科がスタートしました。そして、最後の「地球的視野」を体现したのが国際コミュニケーション学部で、140周年を迎える2020年度に新設される予定です。日本の文化を知らずに外国人とのコミュニケーション、ひいては地球的視野も養えません。専修大学の国際化のひとつのスタイルとして、現在、開設準備を進めています。**金子** 国際コミュニケーション学部が神田キャンパスで展開することで、法学部、商学部とのシナジーも大いに期待できます。1つは、外国語科目の圧倒的な充実による神田キャンパス全体の国際化。もう1つは、文化や

コミュニケーションを学ぶ機会が増えるということです。そもそも外国語を学ぶのは、それが目標ではなく、あくまでも学問的関心を満たすための手段であると考えます。国際コミュニケーション学部では身に付けた語学を通して、国内外の文化やコミュニケーションについて広い視野で学びます。文化と一口に言っても抽象的なものではなく、たとえば、政治や行政にも各国の文化がありますし、国によってやり方に違いのある商習慣もひとつの文化だと言えます。国際コミュニケーション学部の影響により、法学部や商学部の学生たちが国際的な視野と文化的な素養を身につける環境ができることに最も期待しています。

Siとは…

「社会知性:Socio-Intelligence」の頭文字[S][I]と「SENSHU Intelligence」の頭文字[S][I]を表現しています。本誌は、専修大学のビジョンと現状をレポートしていきます。



【シンボルマーク&カラー】

Sの字は専修大学と21世紀ビジョン「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」の「S」を意味します。ブルーの曲線は大海原を、緑の球体は地球を表し、本学で「社会知性」を育んだ人材が、世界に羽ばたき、活躍するさまを表現しています。



専修大学マスコット「センディ」

獅子の姿に鳳の羽を配した本学のマスコットは、若者たちに無限の可能性を持つ未来へ力強く羽ばたいてほしいという思いが込められています。



国際コミュニケーション学部を新設 専修大学では2010(平成22)年度以来の 学部設置です

斎藤) 国際コミュニケーション学部は、日本語学科と異文化コミュニケーション学科の2学科で編成しています。この学部の特徴は国際化への対応に目を向けていることです。日本語を母語とする人が外国語を学ぶときには母語である日本語の能力も問われます。日本語と外国語は車の両輪という関係です。また、日本語そのものも国際化の波にさらされています。そこでどちらの学科でも、1年次に日本語を客観的に分析する眼を養う科目を設置しています。日本語学科が扱う日本語学という学問の成果は、実は各所で生かされています。しかし、日本語が空気のように当たり前存在すると感じている人たちには、それが見えにくいのです。2020年からの日本語学科では、日本語学が生かされている場面を体験できる学習内容を取り入れます。例えば、新聞社の校閲部門、声で伝えるナレーター、自然な会話を創り出す劇作家などから直接話を聞いたり、日本語学校や言語研究機関での実習を通して学んだりと学生のキャリアパスにも配慮した学びを展開します。異文化コミュニケーション学科では、「複言語教育」を掲げています。複数の言語を学ぶことで自分なりの語学学習スタイルがつかめると思っています。これが、将来、新たな言語を学ぶときに役立つのです。2年次前期には、全員が海外留学をします。語学力も磨かれますが、語学はあくまでツールでしかありません。異文化コミュニケーションは、相手の文化的背景を理解することなしには成立しません。留学先でも体当たりで吸収してきてほしいと考えています。また、現在建築中の神田新校舎にはグローバルフロアが設けられます。異文化コミュニケーション学科の学生はフロア内に用意された資料を活用して留学先選びを行うことができます。また、フロアでは異文化体験の催しも行いますので、神田キャンパス全体の国際化にも一役買うことになります。

金子) グローバルフロアは、法学部、商学部ほか他学部の学生もネイティブの先生と交流できる場ですので、これも期待できるシナジーですね。

国際コミュニケーション学部が求める学生像 養成する人材像とは

斎藤) とにかく好奇心の旺盛な人、未知の文化に触れることに喜びを感じられる人を歓迎します。養成する人材像は、日本語学科では「わかりやすい日本語で勝負できる人」を育てたいと考えています。わかりやすい日本語の使い手はマスコミだけでなく、一般企業や、公務員などであっても重宝されます。中学・高校の国語の教員でも、今後、日本語を母語としない人への日本語教育の知識は重要になっていくと思っています。異文化コミュニケーション学科では「地球規模で活躍できる人」を育てます。海外で仕事をしたい人を応援したいと考えています。日本国内でも、国際化が進んでいますから、異文化に深い理解のある人材は必要とされるはずです。

佐々木) 今後、外国人への日本語教育の場は増える一方ですし、海外でも日本語教員の需要はますます高まるはずです。日本語教育の学びは国内外で十分活用できるでしょう。また、異文化コミュニケーション学科の学生なら、幅広い知識・関心をもって、卒業後の進路として海外での大学院進学も期待できるのではないのでしょうか。

法学部ではカリキュラム改正が 行われます

森川) 今回のカリキュラム改正は主に法律学科に関する改正で、最大の特徴は「履修モデル制」の導入です。これまでは法律総合コース、企業法務コース、公共法務コースのいずれかに属する「コース制」を取ってきましたが、近年の学生の多様な志向に対応した具体的な履修の道筋を示すことで、将来の目標や自己の興味・関心に適した学習ができるようになります。その履修モデルは大きく4つ。第一の「法律専門職モデル」は法科大学院を目指す法曹モデル、行政書士モデル、税理士や国税専門官などを目指す租税法務モデルが含まれます。第二は、国家公務員・地方公務員モデル、警察官・消防官モデル、裁判所事務官モデルを擁する「公務員モデル」。第三は一般企業志望の学生に向けた一般ビジネス法務モデル、金融ビジネス法務モ

デル、不動産・建設ビジネス法務モデルを擁する「企業法務モデル」。第四は、外国の法と法律の歴史を学ぶモデル、国連職員などの国際公務員を目指す国際関係法モデル、教職モデルを含む「研究・教育モデル」です。学生は履修モデルを登録する必要がありますが、モデルに沿って学習を進めながら、志望や関心の変化に応じて自由に舵を切ることができます。旧カリキュラムではコースごとに異なる選択必修科目があったため、途中のコース変更は学生によって不利益なこともありましたが、今後は柔軟な学習が可能になります。また、法科大学院や大学院に進学する優秀な学生向けに、3年次卒業制度を設置するのも特長です。これにより、学部3年＋大学院2年の計5年で修了できるのです。



商学部と国際コミュニケーション学部との シナジーも期待できます

森川) 商学部の神田キャンパス移転、国際コミュニケーション学部の新設に伴い、3学部間のシナジー効果が発揮できるように両学部とのいくつかの科目を法学部の専門科目として位置付け、カリキュラムの相互乗り入れを実現させます。たとえば、商学部からはマーケティング学科の「ビジネス入門」、「マーケティング」、「ビジネス英語」、「企業と監査」、会計学科の「簿記論1」、「財務会計論」、「管理会計論」、「経営分析論」、「税務会計論」を履修できます。公認会計士試験は商学系と法律系の問題が半々で出題されていることから、法学部の学生にも会計士の道が開けるのではないかと期待しています。また、国際コミュニケーション学部からは異文化コミュニケーション学科の「多文化共生論」、「植民地と現代社会」、「資源としての文化」、「現代社会と多様性」を履修できます。

一方、政治学科でも現行カリキュラムの一部変更や、法律学科と同様に商学部や国際コミュニケーション学部の科目を履修できる相互乗り入れも行われます。これまで弱かった国際的側面が強化されることも期待できます。

神田キャンパス移転に伴う商学部の改革

渡辺) 商学部の神田キャンパス移転における基本方針は、まず、マーケティング学科と会計学科の実学志向が強いカリキュラム体系のさらなる発展。次に、教育内容の質的向上。3つ目はビジネスと文化の集積地である神田の立地を最大限に活かす教育プログラムの開発や地域貢献活動です。学科別に申しますと、マーケティング学科は、従来の4コース制を現代的に進化させ、マーケティング、ファイナンス、グローバルビジネス、マーケットアナリティクスの4コースに。新設の「マーケットアナリティクスコース」は、ビッグデータ分析やAIの活用など、近年社会で重視される分析手法や考え方を積極的に学修します。コース制の下にはさらに8つの学修テーマも設定し、学習内容の“見える化”を図ります。所属コース以外の分野も学べ、学修テーマに含まれる科目の単位修得もでき、学修テーマの認定書の発行制度も用意するので、学びの深さと幅広さの追求を同時に実現できるのです。一方、会計学科では、簿記検定、公認会計士試験、税理士試験などの資格取得の促進を狙い、取得者には一定の条件下で授業単位の認定制度を導入。資格取得の勉強と授業の学修との両立が一層期待されます。また、学生が主体的に参加するアクティブラーニング科目や英語による専門科目などの展開をマーケティング、会計両学科でこれまで以上に充実させていきます。



法学部と国際コミュニケーション学部との シナジーについて

渡辺) 法学部との間には会計専門職の育成や企業活動と法規制の関連など多角的な接点があり、国際コミュニケーション学部とのシナジーも、たとえば、マーケティングや会計学などをグローバルな視点で学びたいればより高度で広範な語学力や国際的教養を習得できると考えます。具体的には法学部の「経済法Ⅰ・Ⅱ」、「労働法Ⅰ・Ⅱ」、国際コミュニケーション学部の「比較文化」、「越境する文化」、「環境と文化」などがシナジー科目として履修できます。

佐々木) 私は商学部出身なのでよくわかるのですが、法学部と商学部は非常に親和性が高い。国の財政を維持する法関係の専門科目を商学部の学生が学べることは大変魅力的です。また、近年、本学では2、3年次での公認会計士試験合格者が増えていますが、資格取得を終えた彼らが次に興味を持つのが、企業活動のグローバル化に対応するための世界動向や語学、外国文化や商習慣です。国際コミュニケーション学部とのシナジーはその欲求にも応えられます。

生田キャンパスで活発に行われた 地域貢献活動の継承 神田キャンパスで予定される活動について

渡辺) これまで商学部では複数のゼミナール等が地域と連携して研究活動をしてきましたが、ここ数年は神田キャンパス周辺での取り組みも増えています。私のゼミナールでも3年前から商店街や区役所などと連携し、地域の魅力を情報発信する活動に取り組んでいます。現在は学生が生田から神田へ“遠征”して活動していますが、神田移転後はまさに自分たちの本拠での活動になるので一段と活発化、多様化していくと思われます。地域の方々への期待も日増しに高まっているのを実感しています。

生田キャンパスの改革状況と将来構想

佐々木) 2019年度には経営学部ビジネスデザイン学科の新設、文学部ジャーナリス

ム学科の改組、2020年度には経済学部の再編が始まります。経済学部の新設される「生活環境経済学科」はダイナミックな経済活動を支える生活環境にも目を向けた学科で、特に女子学生が能力を発揮できる分野として期待しています。また、改革ではありませんが、データサイエンスの専門家の集結にも注目しています。ネットワーク情報学部をはじめ、心理学科、社会学科、ビジネスデザイン学科、そして経済学部の新学科「現代経済学科」までの研究者・先生方が多く集まるキャンパスですから、企業からの需要や産学共同分析など、新しいうねりが起こる予感がしています。川崎市はIT系企業の集積地でもあるので彼らも興味を示すほどのデータサイエンスの研究拠点となれば面白いですね。

金子) 2020年度からは語学教育の充実化を図り、ネイティブの先生を段階的に増員します。語学のクラスは能力別に分けているので、初めは上級クラスから試みます。

2020年に創立140周年を迎え、 専修大学が見据える方向性とは



佐々木) 今、私たちがなすべきことは、140周年までに作り上げたコンテンツを、エビデンスをもってわかりやすく発信し、いかに専修大学の認知度を高めるか―“知ってもらう”努力をし、社会とのコミュニケーションを強化することです。幸い、今年の志願者は昨年より1万人も増加し5万人を超えました。新入生たちが本学を選んだ理由や大学への期待感をつぶさに聞き、改革のヒントを得たいと考えています。また、少子化などで大学運営の環境も厳しい時代で、全学的に危機感を共有することも重要です。教職員に限らず、本学の校友や育友とも意識を一つにすることを通じて、創立150周年に向けた展望も描いていきたいと考えます。

知の発信のための研究開発



専修大学社会知性開発センターから世界へ

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014年度採択)」の3プロジェクトの成果報告

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター



ソーシャル・ウェルビーイング研究センター(研究代表:原田博夫経済学部教授)は、躍進著しいアジア地域を中心にウェルビーイング(幸福)に関する国際比較調査を行うと共に、国際的な研究コンソーシアムの構築を目指して相互交流事業を促進しています。2018年にはベトナム、タイの研究機関に続き、新たに韓国ソウル国立大学アジア研究所社会科学資料院(KOSSDA、Jaeyeol Yee院長)と国際交流組織間協定を締結。同大との共催で第4回目となる国際コンファレンスを実施しました。同年は、センターのプロジェクト最終年度であったことから、11月には生田・神田両キャンパスにおいて多年にわたる調査結果を報告する国際コンファレンスを開催。2009年以来から続く調査活動に関与した8カ国90人の研究者が収集した膨大なデータをWEBで公開することが原田代表から発表されました。国により異なる「幸福度」を調査・収集した同センターの成果は、社会のあり方を探求する次代を担う研究者の礎となります。

古代東ユーラシア研究センター



古代東ユーラシア研究センター(研究代表:飯尾秀幸文学部教授)は、2018年度に2回のシンポジウムを実施しました。9月に開催したシンポジウムでは「古代東ユーラシアの国際関係と人流」として中央アジアから日本までつながる古代の国の関係や人々の動きについて3人の専門家が講演しました。11月に開催したシンポジウムでは「東ユーラシア地域論の現在―交流・交易からみた北と南―」として古代中国の辺境統治、北部ベトナムの陶磁器貿易、9～12世紀のアイヌの交易や日宋貿易について、歴史学や考古学の研究者4人が講演しました。2014年度に「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」を研究課題としてスタートしたプロジェクトの最終年度に際し、飯尾代表は「東アジア世界史をより広い視点で捉えようとスタートしたが、東ユーラシアには多くの“中心”と“周縁”が重層的に存在し、さまざまな交流・交易によって歴史がつくられてきた」と成果を報告しました。

アジア産業研究センター



アジア産業研究センター(研究代表:小林守商学部教授)はラオスのピエンチャンとベトナムのハノイで2度の国際シンポジウムを開催しました。アジア産業研究センターでは、2014年度以来一貫して「メコン諸国における経済統合の中小企業への影響についての研究―『ASEANサプライチェーン』の観点から」というテーマに基づく調査・研究に取り組んできました。プロジェクトではメコン地域5カ国(タイ、ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジア)において異文化におけるマネジメントやビジネス環境の差異についてデータを収集すると共に毎年度、国際シンポジウム等の場において研究成果を社会に還元してきました。ASEANにおける経済統合を、製造、流通、物流等の企業活動の視点から展望する調査・研究の成果は日本とメコン諸国との架け橋となるものです。

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業とは

私立大学が各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、研究プロジェクトに対して文部科学省が重点的かつ総合的に補助を行う事業であり、日本の科学技術の進展に寄与することを目的として、2008年度から実施されています。本学では、2014年度にソーシャル・ウェルビーイング研究センター、アジア産業研究センター、古代東ユーラシア研究センターの3つの研究プロジェクトが採択され、2018年度までの5年間にわたり研究を行いました。



国際交流をさらに加速

新たにベトナム、韓国の2校と協定締結。国際交流協定校は18カ国・地域25大学に。

タイの大学と初の国際交流協定



専修大学はタイ商工会議所大学(UTCC、サオワニー・タイルンロート学長)と国際交流協定を締結しました。タイの大学との協定は初となります。UTCCはバンコク市にある学生数約2万人の私立文科系総合大学。タイ商工会議所を母体とする調査部門が独立し、1984年に大学教育機関として誕生しました。会計、経済、人文、科学、コミュニケーションアート、エンジニアリング、法律、経営、観光など幅広い分野をカバーする11学

部と、大学院を擁し、国内のビジネス分野の教育機関として高い評価を誇ります。同大学の経済ビジネス予測センターとは、本学の社会知性開発研究センター／アジア産業研究センター(研究代表:小林守商学部教授)が2015年に国際交流組織間協定を結んでおり、今回の大学間協定締結は、共同教育プログラムの実施や学術訪問などを通じたこれまでの密接な関係構築が結実した形となりました。

韓国・慶熙大学と国際交流協定を締結

専修大学は韓国の慶熙大学(チョ・インウォン総長)と国際交流協定を締結しました。1949年創立の同大学は、幼稚園から大学院までの一貫教育が特徴で、文・理系合わせて20を超える学部を持つ私立総合大学。特に東洋医学分野の教育・研究において韓国内外で高い評価を獲得しています。本学における韓国の大学との大学間協定は檀国大学に

次いで2校目となりました。2017年には同大学の外国語学部と本学文学部が国際交流組織間協定を結んでおり、これまでに本学文学部日本語学科の学生が、海外で日本語を教える「日本語教育実習」を同大で実施したほか、同大の学生を短期留学生として受け入れるプログラムを実施するなど、学生間の活発な交流を背景に大学間の協定に発展しました。



講談社から約8万件の人物資料寄贈

本学は、講談社から貴重な人物資料の寄贈を受けました。昭和から平成にかけて収集された人物資料は、1978年から2012年までの国内の新聞12紙、雑誌25誌に掲載された記事スクラップで、時代を彩った人々の集大成といえます。人物資料の総件数は7万6363件に及びます。これらの資料は図書館生田分館5階に保管され、文学部ジャーナリズム学科開設に合わせ、「現代人物アーカイブズ」として2019年度から公開されます。

人物アーカイブズ開設記念式典



野間省伸講談社社長(左)と佐々木学長(右)



ラオス国内での簿記教育の発展と普及に向けて協力協定を締結

専修大学はラオス国内での簿記教育の発展と普及に向けた協力協定を締結しました。本協定は、専修大学、専修大学会計学研究所、川崎商工会議所、ラオス国立大学、ラオス国立大学経済経営学部、ラオス商工会議所の6者によるもの。本学は会計学研究所が中心となり、ラオス語の複式簿記テキスト作成や、ラオスで簿記のエキスパートとして活躍する人材の育成支援を進めます。



会計教育100周年・会計学科50周年記念式典

2018年は専修大学における会計教育100周年とともに、会計学科創立50周年の節目の年でした。生田キャンパスで開催された記念式典には、佐々木重人学長はじめ教職員、学生、卒業生ら170人が出席。2020年に神田キャンパス移転を控え、会計教育の意義を再確認しました。



専大生のチカラ

※学生の学年、情報は平成30年度時点のものです。



公認会計士試験に23人、司法試験に5人、国家公務員採用総合職試験に3人が合格

2年次での公認会計士試験合格は本学初の快挙。

2018年度の公認会計士試験結果が発表され、本学からは在学生・卒業生合わせて23人が合格（2019年1月30日現在判明分）しました。内訳は、在学生が12人（2年次生1人、3年次生6人、4年次生5人）、卒業生は9人。本学で2年次生の公認会計士試

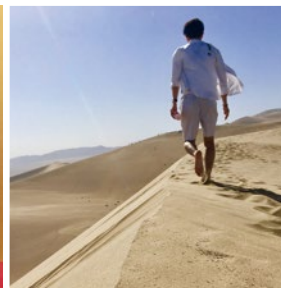
験合格は初の快挙です。また司法試験では、専修大学法科大学院修了者の5人が合格。2004年度の法科大学院設置以来、合格者数は累計160人となりました。また、国家公務員採用総合職試験においては3人が合格を果たしました。



在学生2人がJICAインターンシップ&大学生訪中国に参加

南米パラグアイ、中国など、世界各地で専大生が国際協力に貢献。

文学部英語英米文学科の豊岡優希さん（3年次）が国際協力機構（JICA）のインターンシップ・プログラムに参加し、団体の広報活動に従事しました。JICAから派遣された青年海外協力隊員やシニアボランティアにインタビューや撮影を行いながら同国内12カ所を訪ね、SNSで活躍の様子を伝えました。



中国政府の要請を受けて日中友好大学生訪中団に宮澤俊太朗さん（法4）が参加。2017年に内閣府の事業でミャンマーに渡航した経験を持つ宮澤さんは、渡航時に日本の良さを再発見した経験から祖父で長唄三味線の人間国宝、杵屋浄貢さんから手ほどきを受けた三味線など、伝統文化を通じた国際交流に取り組みたいと意欲を語りました。



多摩区CM作品 総務大臣奨励賞を受賞

「かながわ市民映像祭2017」でグランプリ獲得。初作品が栄誉に輝く。

「かながわ市民映像祭2017」わがまちCM部門でグランプリを獲得したネットワーク情報学部3年次の真内みずほさんが「地域発デジタルコンテンツ」総務大臣奨励賞を受賞。総務大臣から直接表彰状を贈られました。総務省はクリエイターの育成や地域からの情報発信を目的としたデジタルコンテンツコンテストを各地で実施。今後の創作

活動が期待される個人・団体を表彰しており、昨年度は8作品が受賞しました。作品は、多摩区で育った主人公が成長していく過程を主観ショットで撮影したもので、真内さんは本作が映像制作初挑戦。「30秒は思いのほか短く、まとめるのに苦労した」と話し、「今後は映像分野に限らず、広く創作活動を行っていきたい」と抱負を述べました。



賞状を贈られる真内さん(右)

真内さんの作品
「わたしが生きる町」の一場面



栗芝プロジェクト、災害用段ボール椅子を考案

ネットワーク情報学部の栗芝プロジェクト（栗芝正臣准教授（デザイン学））が、災害避難時に活用できる段ボール椅子を考案。その成果をネットワーク情報学部プロジェクト中間発表会で披露したほか、「渋谷防災フェス2018」など学内外のイベントにも出展し好評を博しました。製作に必要なものはミシン目カッターとハサミのみ。備蓄用ペットボトルが入っていた段ボールを再利用するため、災害時などに手早く作ることができるのも利点となります。「体重70キロの人が立って乗っても崩れない。使うことにより湿気を吸うが、3日間持続して使えます」とプロジェクトリーダーの黒澤恭平さん（3年次）。栗芝プロジェクトでは、さらに工夫を重ね、段ボール椅子を連結したタテ2段重ねやベッドの製作に取り組んでいます。



学生提案、企業で実現

産学連携で毎年実施している神奈川産学チャレンジプログラム（神奈川経済同友会主催）で、2017年度に優秀賞を獲得した学生たちのアイデアが相次いで企業に採用されました。経営学部経営学科の間嶋崇ゼミが京浜急行バス（東京都港区）に提案したQRコード付き「京急リムジンバスポストカード」は昨年12月末から無料配布がスタート。商学部マーケティング学科の石川和男ゼミが京急ステーションコマース（東京都港区）に提案した「トラベルグッズ」は商品化され、数量限定で京急グッズショップやオンラインショップなどで販売されています。



間嶋ゼミ提案の
「京急リムジンバスポストカード」

石川ゼミ提案の「トラベルグッズ」



限界集落活性化に取り組む

新潟県の限界集落の活性化に取り組んでいる経営学部経営学科の森本祥一ゼミが運営を担う「あざみひら演劇祭」が開催されました。同県十日町市、蒔平集落において2010年から行われているこの演劇祭は、美術や演劇を学ぶ学生や県内のアーティストが地元の人たちと交流しながら芝居を創り上げていく蒔平の恒例夏行事。今回は3年に1度の「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2018」の一環として開催され、森本教授が現地の人々と共に野外劇場の土台作りを行ったほか、ゼミ生も現地を訪れ劇場の整備に汗を流しました。森本ゼミは南魚沼市辻又特産のコシヒカリを売り出すブランド戦略や、古民家を生かす取り組みなどを記録書『大学生、限界集落へ行く』として上梓し、第1回食生活ジャーナリスト大賞を受賞しています。



ベースボールビジネスアワード2017で大賞を受賞

読売新聞社主催の「大学生のベースボールビジネスアワード2017」で、文学部人文・ジャーナリズム学科、清水聖志人ゼミの「流れを変える！“勝ち取れ！”グッズの提案」が大賞を受賞。応援グッズやイベントなどファン層を広げる企画が高評価を獲得しました。



公共政策フォーラムで新城市議会賞を受賞

自治体の課題に大学生が解決策を提案する「公共政策フォーラム2018」が愛知県新城市で開催され、商学部マーケティング学科の石川和男ゼミが参加。全国13大学16チームが参加するなか、「マイルドヤンキーが活躍するまちづくり」を提案し、3位に当たる新城市議会賞を受賞しました。



※学生の学年、情報は平成30年度時点のものです。

フェンシング –Fencing–

菊池小巻、2つの国際大会で金メダル獲得。インカレも制して学生女王奪還。

菊池小巻さん（商4・翔陽高）が2018年も躍進しました。6月にタイで開催されたアジア選手権では、女子フルーレ個人で優勝を達成しました。続いて8月にインドネシアで行われたアジア競技大会では女子フルーレ団体に日本代表メンバーとして出場し、見事優勝。同大会同種目での日本勢初となる金メダル獲得に貢献しました。11月に行われた全日本学生フェンシング選手権では、2年ぶり2度目の優勝に輝き、学生女王の座に振り返りました。菊池さんは「やりにくさはあったが、最後の関東学生選手権で、勝ちたいという強い気持ちがあった。試合内容に納得していないが、優勝できてうれしい」と笑顔で振り返りました。

2つの国際大会で金メダルに輝き、在学中に数々の国際大会で好成績を収めた菊池さんは、川島記念特別功労賞を受賞。川島記念会会長の日高義博理事長から表彰状を、佐々木重人学長から記念メダルを授与され「限られた人にしか与えられない賞をいただき、とても光栄です」と喜びを語りました。

関東学生新人戦で坂井選手が優勝！

坂井真子さん（経営1・東亜学園高）が関東学生フェンシング新人戦で女子フルーレ初優勝。坂井さんは専大に入学して半年で大学での初タイトルを獲得しました。



アジア競技大会日本代表メンバー



菊池小巻さん

坂井真子さん

サッカー –Soccer–

横浜FCへ中山克広さん（経済4・麻布大附属高）、ヴァンフォーレ甲府へ小林岩魚さん（法4・甲府第一）の入団が内定。中山さんは「さらなる飛躍を目指し、恩返ししたい」、小林さんは「1年目から活躍できるように頑張ります」と各自抱負を語りました。



小林岩魚さん（写真左）
中山克広さん（写真右）

野球 –Baseball–

福岡ソフトバンクホークスの高橋礼選手（平30商・野球部OB）が野球日本代表メンバーに初選出。「いつかは日本代表に」という夢をプロ1年目にしかなえました。専大出身者の日本代表入りは黒田博樹氏（平9商・元広島東洋カープ）以来2人目となります。



高橋礼 選手

卓球 –Table tennis–

全日本大学総合選手権（団体の部）で28年ぶり18回目の栄冠

全日本大学総合卓球選手権で男子卓球部が悲願の優勝を達成。28年ぶり18回目の栄冠に輝きました。2年連続準優勝に終わっていた専大卓球部は、今大会も難なく予選を突破し決勝トーナメントに進出。決勝では昨年、一昨年と決勝で敗れた明治大学を相手に、ストレート勝ちで優勝を果たしました。



全日本大学総合選手権（個人の部）で64年ぶりシングルス男女優勝！

全日本大学総合卓球選手権において及川瑞基さん（商3・青森山田高）が男子シングルス初優勝。女子では、安藤みなみさん（商4・慶誠高）がシングルス連覇、枝松亜実さん（人間科学2・山陽女子高）とペアを組んだダブルスも連覇を達成し、安藤さんは2年連続2冠の偉業達成となりました。本学がシングルの男女を制するのは実に64年ぶり。男子シングルスは専大勢が上位を占めました。女子シングルス優勝の安藤さんは「絶対に連覇するという気持ちで練習に取り組んできたので結果につながってよかった」と笑顔で語りました。



田添響さん

安藤みなみさん（左）
枝松亜実さん（右）

安藤・田添・三部がTリーグ参戦

2018年10月に開幕した卓球の「Tリーグ」。世界トップクラスの選手が多数参戦する中、本学から安藤みなみさん（商4・慶誠高）がトップおとめピンポンズ名古屋に、田添響さん（商4・希望が丘高）が木下マイスター東京に、三部航平さん（商3・青森山田高）が岡山リベッツに所属し、参戦しています。

レスリング –Wrestling–

全日本大学レスリング選手権68Kg級の松雪泰成さん（商3・星城高）が学生王者に輝きました。JOCジュニアオリンピックカップでは荒木大貴さん（経営2・玉名工高／57Kg級）と前田明都さん（経営2・花咲徳栄高／72Kg級）が優勝しました。



荒木大貴さん（右）

スキー –Ski–

ロシアで行われたユニバーシアード冬季競技大会で、馬場直人さん（経営4・中野立志館）が30Kmフリー（マススタート）で金メダルを獲得する快挙を達成しました。



馬場直人さん（中央）

スポーツ研究所公開シンポジウム

スポーツ研究所（佐竹弘靖所長）の公開シンポジウム「日本サッカーはワールドカップで何を学び、何を継承していくのか」が生田キャンパスで行われ、学生ら延べ700人が参加。サッカーの元日本代表選手、日本代表チームを支えたコーチや識者が、日本チームの強化策を語りました。



TOPIC 1 OB代情さん映画「万引き家族」プロデュース

本学OBの代情明彦さん（平2経済）プロデュースの映画『万引き家族』がカンヌ国際映画祭で最高賞パルムドールの栄誉に。代情さんは「映画のロケーション撮影もした生田キャンパスは私の原点。映研での活動や仲間との交流はその後の映画人生の土台」と本学とのゆかりを語りました。



代情明彦さん（左）

TOPIC 2 文学部ジャーナリズム学科開設記念対談

文学部ジャーナリズム学科開設を記念して、特任教授に就任する長野智子さんと文学部の武田徹教授との対談が行われました。長野さんは元フジテレビアナウンサーで現在は「サンデーステーション」（テレビ朝日）のメインキャスター。明瞭な語り口で特任教授就任の抱負を語りました。



武田教授（左）と長野智子さん（右）

TOPIC 3 生田キャンパス70年の歩み

生田キャンパスの開設70周年を記念し、特別展示が専修大学サテライトキャンパスで行われました。展示会では往時の様子を伝える資料を通じて生田キャンパス開設前後の川崎市多摩区の歴史、小田急線開通による発展の様子を紹介。地元の方も多く訪れるなど、盛況を見せました。



開設当時の生田キャンパス正門と校舎

TOPIC 4 就職支援協定をさらに拡大

専修大学は新たに岩手県、千葉県、愛知県、滋賀県、京都府、島根県、高知県と就職支援協定を締結しました。本学が就職支援協定を結ぶ自治体は31（30府県1市）となりました（2019年3月末現在）。



森田健作千葉県知事（左）と佐々木学長（右）

[貴重書ギャラリー]

専修大学図書館は、明治44年(1911)創立者の相馬・田尻還暦記念文庫を元に、大正元年(1912)図書館を開設、平成24年(2012)に100周年を迎えました。現在の蔵書数は約190万冊に及び、なかにはフランス革命期の大コレクション(ベルンシュタイン文庫)、江戸戯作コレクション(向井信夫文庫)、蜂須賀家旧蔵本、本学ゆかりの方々の旧蔵コレクション、さらには世界の名著・古典と評される図書なども所蔵しています。本貴重書ギャラリーでは、それらの貴重な資料の中から数点を選び、ご紹介しています。

【古書】長秋詠藻



長秋詠藻 3巻
藤原俊成撰
藤原爲世筆、永仁4(1296) [写]
1帖 24.6×16.0cm
蜂須賀家旧蔵
重要文化財指定

紺色地瓢単唐草文金襴表紙、見返しは薄茶色に銀砂子の雲形文、金銀箔散らし、鳥の子、一面八行・歌一行書で、校合がある。四類ある伝本のうちの藤原定家が寛喜元年(1229)四月に俊成自撰の原本を書写し、右大臣家百首を増補した形を伝える本を永仁四年(1296)九月に藤原爲世(1250-1338)が書写したものである。古筆了悦(生没年不明 古筆鑑定家)の極札が一枚ある。『長秋詠藻』は、平安・鎌倉時代前期の歌人藤原俊成(1114-1204)の家集で、治承二年(1178)三月に成ったもの。書名の「長秋」は、俊成が後白河院皇太后宮太夫であったことから、皇太后の唐名「長秋宮」からとったものである。

募金ご協力のお願い

専修大学の教育・研究活動、学生支援、教育施設整備のため、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

※払い込みには、金融機関・ネットバンク、コンビニ、クレジットカードのご利用が可能です

専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金

キャンパス整備、教育研究充実、奨学金制度充実、国際化推進、スポーツ振興などに活用させていただきます。

【**チェア募金**】靖国通り神田新校舎(仮称)で使用する椅子の整備に充てます。 【**経済支援奨学金募金**】 【**箱根駅伝出場応援募金**】

古本募金 ～本で繋ごうオール専修の絆～

読み終えた本を学生生活を支える奨学金として活用させていただきます。

お問い合わせ

専修大学募金局

TEL 03-3265-3157
E-mail : bokin@acc.senshu-u.ac.jp

募金のご協力はここから

https://www.senshu-u.ac.jp/about/donation/method_copy.html



[専修大学 学長室企画課]

[神田キャンパス] 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 [生田キャンパス] 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

Tel: 044-911-1252 Fax: 044-900-7803 <https://www.senshu-u.ac.jp/>

※本誌は、学生・教員へのインタビューに加え、ニュース専修掲載記事や本学HP等を通じて公開された情報を元に編集し発行しています。